



1918年（大正7年）に始まったさくらまつり（当時は観桜会）は今年で100年目を迎えました。今年の中濠を運行する観光舟や、いつもと違った眺めから桜を楽しむことのできる人力車、特製お花見弁当や津軽三味線を堪能できるさくら栈敷など、100年目を記念して多種多彩な催しが行われました。5月3日には「弘前観桜会記念日」と称し、昔ながらのチンドン屋のパレードや花火の打ち上げも行われ、訪れた花見客はいつもと一味違ったまつりの雰囲気を楽しみました。天候にも恵まれた今年のさくらまつりは会期中、述べ251万人が来園。満開に咲き誇る桜のほか、雪のように花びらが舞い落ちる花吹雪や水面いっぱいに広がる薄紅色の花筏（いかだ）など、その時々で美しさを変える桜の姿は、訪れるすべての人々を魅了しました。



グラフィ特集

弘前さくらまつり 100年目

